

探究通信

2025 (第5号)
富山県立高岡高等学校

2026年3月発行
編集 探究科学委員

課題研究の集大成を発表 2年探究科学科 三校合同発表会・校内発表会

令和7年12月20日(土)、富山国際会議場で富山高校・富山中部高校・高岡高校による三校合同課題研究発表会が開催されました。2年生の人文社会科学科・理数科学科生徒たちが、4月から取り組んできた課題研究の成果を発表し、他校生徒や大学教員の方々と熱い議論を交わしました。

開会式では、本校代表として英語2班が「まず、翻訳とは…何か(エクスプラナトリー)」のテーマでステージ発表しました。同班は、日本の漫画を英語に翻訳する際に生じる解釈・表現の仕方の違いについて、両言語の特徴や文化的背景に着目して考察しました。同班の生徒は、これまでの活動を振り返り、「自分たちが何をを目指しているのかわからなくなり、研究の軸がぶれてしまう時期もあったが、班員と助け合って一つの大きなものを作り上げることができた」と苦労や達成感を話してくれました。

令和8年1月21日(水)、高岡文化ホールで課題研究校内発表会が行われました。2年人文社会科学科・理数科学科生徒が、大学・高校の教員、2年普通科・1年探究科学科生徒の前で発表を行い、1年間ご指導いただいた先生方から講評をいただきました。

全体会では26日の中村善行さんが代表挨拶し、次年度課題研究を行う1年生にエールを送りました。



開会式でステージ発表を行う英語2班

「探究」を通して県内の高校生と交流 とやま探究フォーラム参加

令和8年1月31日(土)、富山大学でとやま探究フォーラムが開催され、人文社会科学科・理数科学科・普通科・海外研修参加者から計5つの代表班(いずれも2年生)が参加しました。

理数科学科からは生物班がポスターセッションに参加し、多くの来場者に課題研究の成果を発表しました。また、他校生徒たちとの交流会も行われ、「探究」を通して友情の輪を広げる機会となりました。参加した生物班の生徒は「自分たちの研究に対して質問や感想を受けたり、他校の生徒と研究について情報交換したりできて、大変有意義な時間になった」と話していました。生物班の研究内容を下に紹介します。

生物班

「植物はカフェインで眠る?! ~環境にやさしい農業の開発~」

【研究内容】

現在よく使われている化学農薬は環境に悪影響を及ぼすことがある。そこで、植物のアレロパシー作用を利用して環境負荷の小さい農業を作ることを目的に研究を行った。複数の植物の種子にカフェイン溶液を与えて観察することで、カフェイン溶液による成長抑制作用の傾向を調査した。また、植物を混植した実験を行い、実用性についても考察した。



来場者に研究内容を説明する生物班

氷見・伏木を訪れ震災について調査 1年探究科学科 「総合」人文実習

令和7年12月9日(火)、1年探究科学科(人文社会科学科進学予定生徒)は、氷見・伏木を訪れ、能登半島地震の被害や復旧状況についてフィールドワーク調査を行いました。氷見班は、ひみ番屋街や氷見漁港、氷見市役所などをグループごとに分かれて訪問。その後、ひみ番屋街で集合し、住宅街・商店街の被害状況や現在の様子を見学しました。伏木班は、高岡市役所の方から被害状況の説明を受けた後、グループごとに勝興寺や伏木地区の店舗を訪れました。後日学校で、調査内容を他グループの生徒と共有した上で、生成AIも活用しながら各グループの探究課題を設定しました。



公費解体された跡地を見学する生徒たち

令和8年1月28日(水)には、富山大学人文学部の大西宏治教授をお招きし、人文系の研究のあり方についてお話を伺いました。人文系の研究とはどのようなものか事例をもとにお話しただくとともに、12月のフィールドワークと課題設定を踏まえ、アンケート調査・実地調査のポイントや被災状況調査の実際について教えていただきました。私たちが設定した課題に対し、研究として成り立つかどうか、どう改善すればよいかフィードバックをいただく機会もあり、「答えが二極化されてしまうものは研究にはなりにくい」「調査結果から研究目標にどうアプローチするかが重要」など、多くを学びました。



各グループの課題に助言する大西先生

課題研究に向けて研究スキル学ぶ 1年探究科学科 「総合」理数実習

令和7年11月19日(水)、1年探究科学科(理数科学科進学予定生徒)は、金沢大学医薬保健研究域の古川敦准教授をお招きし、科学リテラシーについての講義・ワークショップを行いました。課題設定の着眼点や仮説検定の技術などを教えていただき、次年度の課題研究にもつながる知識やスキルを学ぶことができました。ワークショップでは、実際に発表された論文を題材に、実験方法や結果の解釈の妥当性を検討しました。これから自分たちが研究を行う立場になる上で、研究倫理を守ることの重要性を痛感しました。



古川先生の講義に耳を傾ける生徒たち

令和8年1月28日(水)には、「統計の活用~タカ高探究生徹底分析~」と題して演習を行いました。自分たち自身が回答したアンケート結果を用いて、実践的な統計処理を体験しました。データ分析の精度を高めるにはどのような調査設計が必要かを深く考える機会となりました。

~編集後記~

- ・実習を通して、インターネットに載っていない情報を自分で確かめることやAIを上手く利用して先行研究について調べることが大切だと学びました。次年度の課題研究では、科学リテラシーやテーマ設定を意識し、先行研究からさらに発展させた研究ができるように取り組んでいきたいです。(1年探究科学委員)
- ・三校合同発表会は、多くの方にご意見をいただき、また、他校生徒の興味深い発表を聞くことができ、大変有意義な時間でした。一年を通した課題研究はよい経験になりました。(2年探究科学委員)